

おわりに

本研究所の聴覚障害教育研究班では、これまで聴覚障害児童生徒の障害やコミュニケーション手段の多様化が課題と捉え、特別支援学校（聴覚障害）における手話活用や授業とその評価について研究を進めてきました。

この度、軽度・中等度難聴に焦点を当てた研究に着手したのは、聴覚障害児（者）は、特別支援学校（聴覚障害）だけでなく、様々な場で教育を受けていること、また、聴力レベルの程度にかかわらず、難聴が呈する状態像は多様であることにより、もったときめ細かな指導・支援が必要ではないかと考えたことが契機でした。

このため、本研究に当たっては、他機関の実践者、専門家の支援を受け、実地調査を行い、基礎情報を収集することから始めました。限られた研究スタッフで、研究期間2年で3つの調査を実施しましたが、十分な分析ができなかったと反省があります。

本報告書が、各機関の軽度・中等度難聴児の指導・支援を進めるうえで参考になることを願っています。

最後に、本研究を通して、全国調査の回答にご協力いただきました各特別支援学校、聴覚障害情報提供施設、研究協力機関として情報提供くださいました特別支援学校、研究協力者の皆様に感謝申し上げます。

なお、本報告書に併せて理解啓発リーフレットを刊行いたしました。各機関でご利用いただければ幸いです。

（研究代表者 原田 公人）